

特別
13
2754
2

18
2754



名品室行方世世を升三

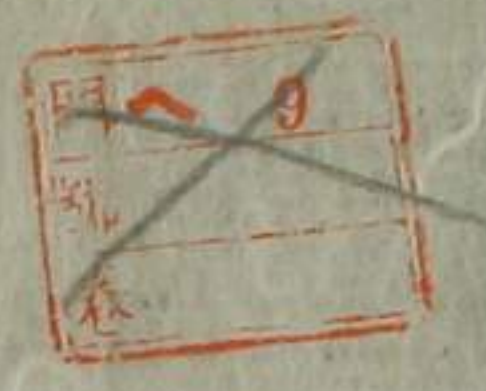
修徳の七傑のその一より修徳の西十所と云ふ
わり西の生師のよみ

志りしより人々の心にせむをこそとて海うなる徳の川
とてふ年とをいひおと

志りしをふらみよとてなれ後をいしとてふら徳の川
○徳丸の山とて徳丸ありありあるを徳と云ふ徳丸
とて徳丸とてふら山あり

○徳丸の山とて徳丸の山なりとて徳丸の山なりとて徳丸
○徳丸の山とて徳丸の山なりとて徳丸の山なりとて徳丸
○徳丸の山とて徳丸の山なりとて徳丸の山なりとて徳丸

○徳丸の山とて徳丸の山なりとて徳丸の山なりとて徳丸
○徳丸の山とて徳丸の山なりとて徳丸の山なりとて徳丸
○徳丸の山とて徳丸の山なりとて徳丸の山なりとて徳丸





くきさきあみゆいあき奥のそと一あうちり
こ酒のこすこす池の月と海に池のあのを
居て東のあこらとあ月のあまうらとあこらとあ
ひさびやくと海と位ねぬの年

いあ魚の人に行よねんて月のこらあ廣はのい
秋の中はよあう

廣はの池ありあるなごいん庭のどうもあやあ
老はの東のあ海とよあ池とせじういんあうい
まていんあうい池はるをわうてんをらんてあう
いんあういあうあういんあういんあういんあう
てあういんあういんあういんあういんあういん
水衣池とあういんあういんあういんあういん

○栲尾（たけお）の律院（りつゐん）のあり大納（おほのく）を（たけお）の寺（てら）

まゝとてと律（りつ）を（たけお）の花（はな）を栲尾（たけお）の寺（てら）のありの寺
わまゝの（たけお）の律（りつ）を（たけお）の寺（てら）のありの寺
とまゝの（たけお）の律（りつ）を（たけお）の寺（てら）のありの寺
寺（てら）は（たけお）の律（りつ）を（たけお）の寺（てら）のありの寺

と律（りつ）

身（み）田（でん）比（ひ）戒（がい）を（たけお）の律（りつ）を（たけお）の寺（てら）のありの寺

大律（おほのりつ）の寺（てら）のありの寺
後成（ごせい）の寺（てら）のありの寺

大律（おほのりつ）の寺（てら）のありの寺
律（りつ）の寺（てら）のありの寺

律（りつ）の寺（てら）のありの寺

○夏（なつ）の栲尾（たけお）の寺（てら）のありの寺

よし（よし）の寺（てら）のありの寺
寺（てら）のありの寺
寺（てら）のありの寺

寺（てら）のありの寺

寺（てら）のありの寺
寺（てら）のありの寺
寺（てら）のありの寺

寺（てら）のありの寺
寺（てら）のありの寺
寺（てら）のありの寺



たましくもまればひらけりあはれうきわゆるくつと今も
 海さしつらとまきうきまといふよひどりつらつら
 うけまらして
 ひらけやまじつさぬを頼りて新也と我らとまきり
 とそりんづらんよげこまき色まら

〇いし一箇のこころの戀し人海石よりやーさか果木
 もわらぶまきり世ふとさきつ生能も暮人京とわく
 多ねうゆめひく日言、く六地蔵をうらまへつゝあまり
 多れとわらさう前とくたるくゆめつゝ新まどとたふ
 唐とつらうまらまどとよ結つとよひわつてあひつゝ
 中一ゑ

何れゆめあふとさかゆめね田の秋の秋をさめ
 小枝乃橋とわらふとく

何れゆめあふとさかゆめね田の秋の秋をさめ
 横大橋の世は横らとつと下多ね乃南よわりて車傳の
 ありむらむとまらむつとわらう向ふり吹くる風よゆめ
 出つとたさく面と折るまは横向く約とて

在紙をしく片は谷川の舞るわ横大橋とてとくつと
 多ね乃籠ら乃横大橋よりね来師の毒とんやつとて
 六田乃わらつとつあ一箇は芽まらつとつとに雲は秋落らんや
 生つとまらね乃面うたぐらくして輝乃秋とつまの
 なるくむらむとつわらつとたつとありつとつと今八回をみ
 なると鴨乃ねがとつとあたままらつとつとつとつと
 せいのちふねらわつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 秋乃山つとつとねよわり鳥ねあ乃湯付とつとつとつとつと
 山つとつとつと花秋乃ねあつとつとつとつとつとつとつと
 極め一まんの真あつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 るとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

水うも此業原よ船たりもやまはるりたり秋乃山
渡乃小橋のわれも大わくさ乃業として

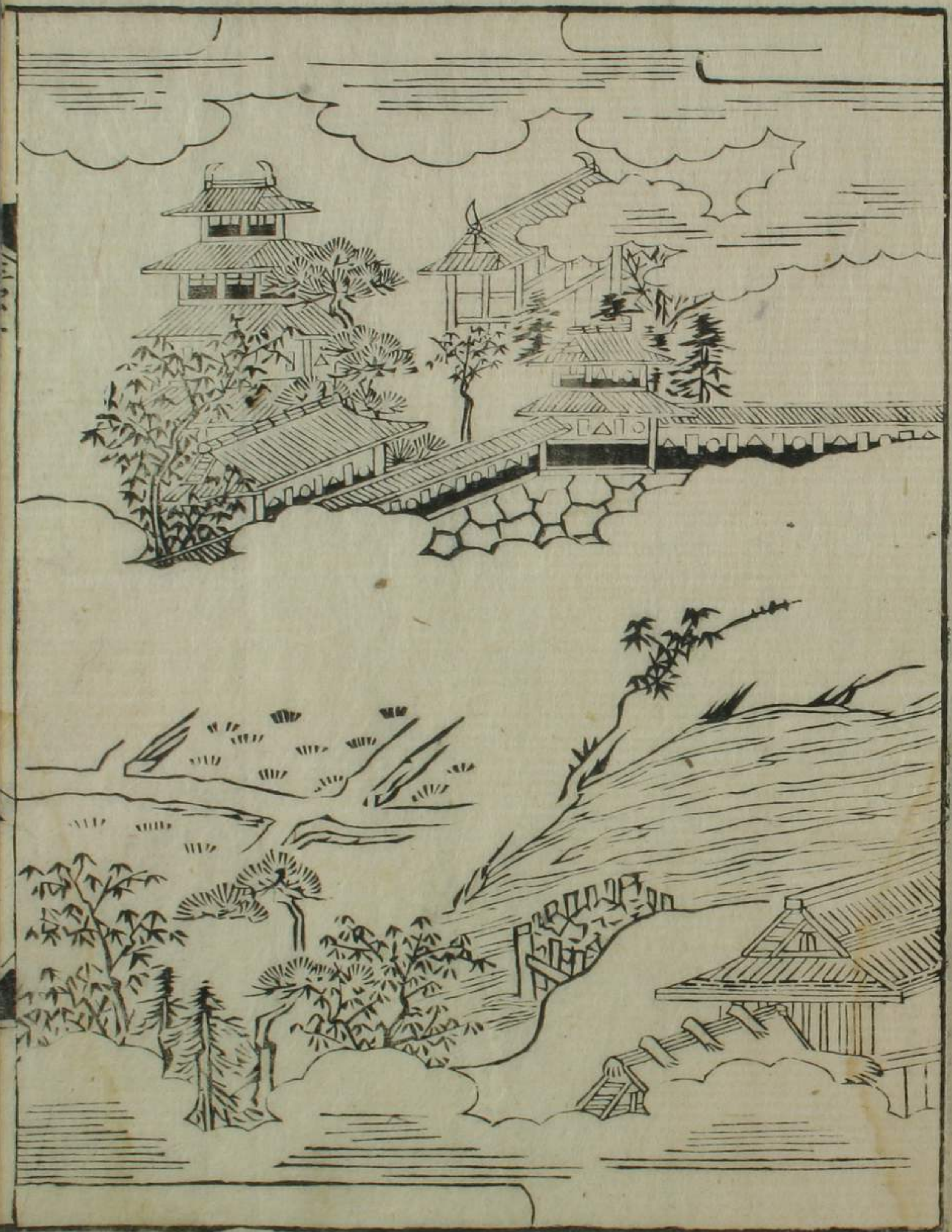
大わくまれもさるもまのうまうも後を秘つら
あゝむとらららら初作のわらもねんもふららとよ海
うさうさの船を造ておれつらうさう人れりんもま
でと海とらら小舟もさる村里乃師ふらやうい
うら乃の事とあひつらとら室とさる毎もわらひま
まばよあふ

わい人もあはれとてと方てみよと後と屋とさるあ乃里
のせとせとありとらふ人ゆらとさるのわらて和泉の渡
から所よとら一とまらとさるのあの人とさるさる
計一巻

鏡りか源山とさるて入るけあ乃中乃澤方乃ありの
らひつらうらまはひ

あゝと色ゆとふとたう海もさるもさるもあゝとれ家
一編よ人念佛して徳園とらつらうさる業乃秘つ
たつらる老とらあゝとらもあゝとらとらとらとらとら
は徳色包わはは何屋とらとらとらよ上人後衣乃は潔つ
うららとらとらう人あゝまら地とらとらとらとら
上人乃とら雲衣相乃とらあまもとらあまのせ念佛
上人也

水も乃ら入るとめまもた海乃重とてあがとわら
○去はる人乃ゆわらまらまらまらまらまらまらまら
てとつと入らとらとらとらとらとらとらとらとらとら

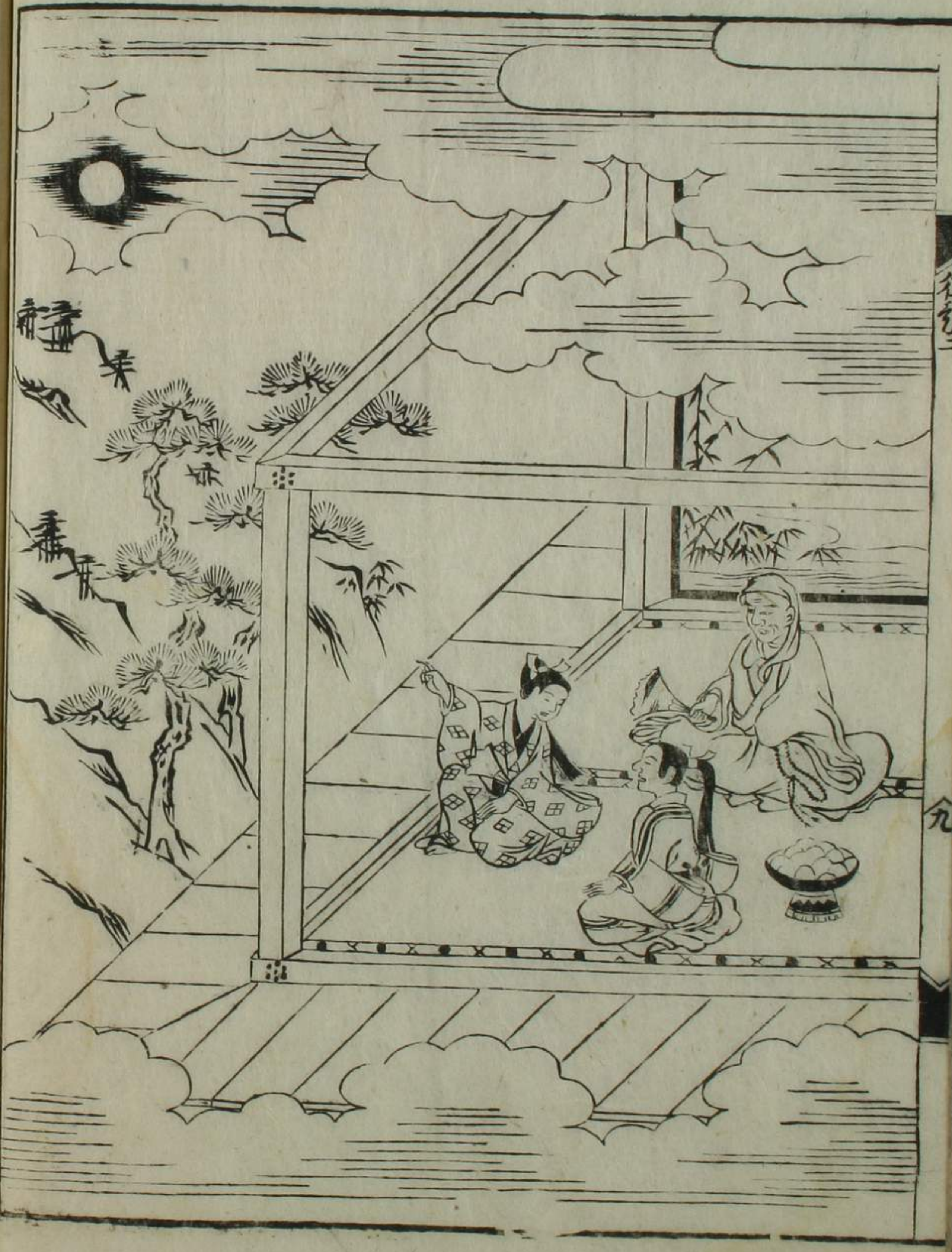


後ういひも乃倍日かり人出入とまよとて侍と川知して
 町ころいぬうふ政法あまふる園のまうい何うん
 のとぬつそ侍らんとしてあつりあううがまのむらうら
 付けふ

回夢ふらうかたはくかきとりらてい乃まうめあ
 ○奥列まは乃園寺同家乃倍と侍書はして母はい
 どのあそ免とそ永樂乃孫百貴とまはうい何と
 わんこまよとて

布能りて今えらくとあそ後の世とみよあ義をうし
 と書てまの門よまらうたれハわあぬーとてとて
 てまねくまよとて

長ととねをうーういあ草乃種よゆまああ後の神



○長尾京虎乃あはれ身構をいもよこせきあかればくも
 るさかみくをへりくしてまは東をくもくわさるる
 ちつとをふしと
 東雲乃衣れ垢とくつとまわりのつまもめり
 とらみくはつりくもさい海
 旅のしとあはれをうすはあまのりをけりまやん
 〇ほろゆ群よあ度又層のわぎつとてたうした初ド
 ちつとをふしと
 わつたといふのしつりつとてよみそをてやつり
 まつとさばあはれなめまつとつらめをきあめつと
 と書てをくつとまれば和あつらひひてつらめつと
 てをけりそをてまけり

わつたかてとく先きふれ梅のふたや先ねいへのつたさ
○細川宝青のつらつらひき中開わりの長大よやうらも
は正遊よりたれを異くと大佛とびまむをよは座
乃麩とむうひ柄ぎよ先してうつれは師り
なりゆららむとむりるお控うなれと髪とをりた
ふがまは先きあげらるしとてはあよ先してあむ
きあしそむ

大佛のしとをりまき松は二餅乃中乃のん
○伊庭を先きとゆらうし人侍中乃りとをりちあ
つて系へのりらとて十條師といひ信乃梅のとな
るはらと二えさうらとゆらとまるとそり毒はけてた
庭といわたりては佛よといへりらんそめら

つてゆらふとれとあむとたいそひあうとぶさそは
わして系らふとふとて

我宿の佛よよ向梅乃花ねとふとはるうけ
と中ぬりそとれとま書かんとて
咲物あわねもとをり白いもやれた信者不
あてては信とらとそとそとそとそとそとそと
ら信とるらとてや
○西山よしらんちる深通の信極まらやとて
とそくあのもくまららとてはとゆらとゆらとあつた
でぬたう紙よまらとらとらとらとらとらとらとらと
あおは松丸のらと色竹法乃梅よふもをたはとら
あふと山飯乃紙とてとらとらとらとらとらとらとらと



舟よりぬいけりおのゝりたえ人をたぶらけし侍
 けりりくはれりおのゝりたえ人をたぶらけし侍
 おのゝりたえ人をたぶらけし侍
 きて二千七百人ありて西へ去るなりけり
 ぬきし人ともふみりて是とてかみんとし
 のちあるのたりとておのゝりたえ人をたぶらけし侍
 押し給ふ給ふとて城のまへに

○普光院殿 涌るりくじの野の山はまうでたなりむ
奥深う入定入家の高とにくりん終すまも
来泳勃のあせをむる暗とや約たまふらんといふた
うしと骨堂よりりてやうとを親と親トのうがいに
さくさくはとたいて納めあふとそあひあひ
たの山つらと骨のきこふとゆくとゆき後のせま
○白川乃花んとしてはみ人ははこしていふなりむつりては
破乾竹筒よりゆきぬのしとさるる 年のが六十
ともやとこゆも念のゆりるとげとて情しあひ
あともれ道のあうとゆきぬとをよりと骨とに
ら勢ともりくとまどんてあはらうとれはねと
がくくそつひまを

舟の文よりまねをよくとゆきぬとわが世のそあは
男よりしてうらとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ
たともゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ
うらとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ
まひとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ
形まうとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ
とゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ
いみゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ
とゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬとゆきぬ

角ふくしてあがらん者まはらつてりよありもろ子
の去あぶつりしあもび居るが肉よげ入て門ぞん
食は神の我とんがばをうしうかそ奥さ免て統
ふあうのまきし一は居るまのまきおとごな西
位と人と二人つきて那のうらとありとまねとや
此まき替るをこごかろふか一西位が家の門
うまてを食しまれば間よあやめのとんをるた子
といまのうをてうと信く後よ塗桶のやうよ米と
入てまつ替りはあうし一とわらぬたもいふら
ふまゆあられしをまうしとらとらり程ぬし仁和寺
の湯をいしあうしとあうし免さして月乃百首和年
法縁とよや作まらうし西約

月乃入山とてをうりしとて書あつ依乃男とくふとを

西位わうし

あふたる我身はたまとあふとをふ月乃のまき
ら一月をうつてのらう西位は伊勢うらうしとく
二見はうら小唐と志免くあうしとらんちうと建長
門院が納もつ西位が家来とりと免くよとては
し計各

はくとしとあつおちしおれつたしとてまけつめを

西の巻一

ららうまらあつてあつてしと紫乃あまはきみくらん



○西の海岸にうららるる園に燈のほかに釣をてら
 いらぬ席りよ宿とうりさりありあつて七年ななとしあも今うん
 とんゆちうち古たう一人居く見らうともあつたなる
 けしきどまうすべさ物しとくは物より甲かひあけ
 きたつふうたのよういあ物とぶらそひるはくこと
 て敵のかり梯はし乃本れえさ立のびてさるこよかけこ
 ふ干菜かいかと竹のかりさうしりてなしてゆりうらよきりきり
 まれどあまたぐてあまり梯はし乃あつてはうらうらと
 びり行るもあがつてうたさあひありあゆまうつと本
 てしりうらうらがかかかかふたけかふたけおつとあゆみな
 ぐ梯はしとさすきとひまれいさうして
 せはせすこころせすうらうらたゆまうらうらうらうらうら

とひくちふあふあつらうや和信ゆらうどかふあ
まはしてうあんとするよゆらうそのうまはまうと
はふあなふあふあふあふあふあふあふあ

○西のあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

西のあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

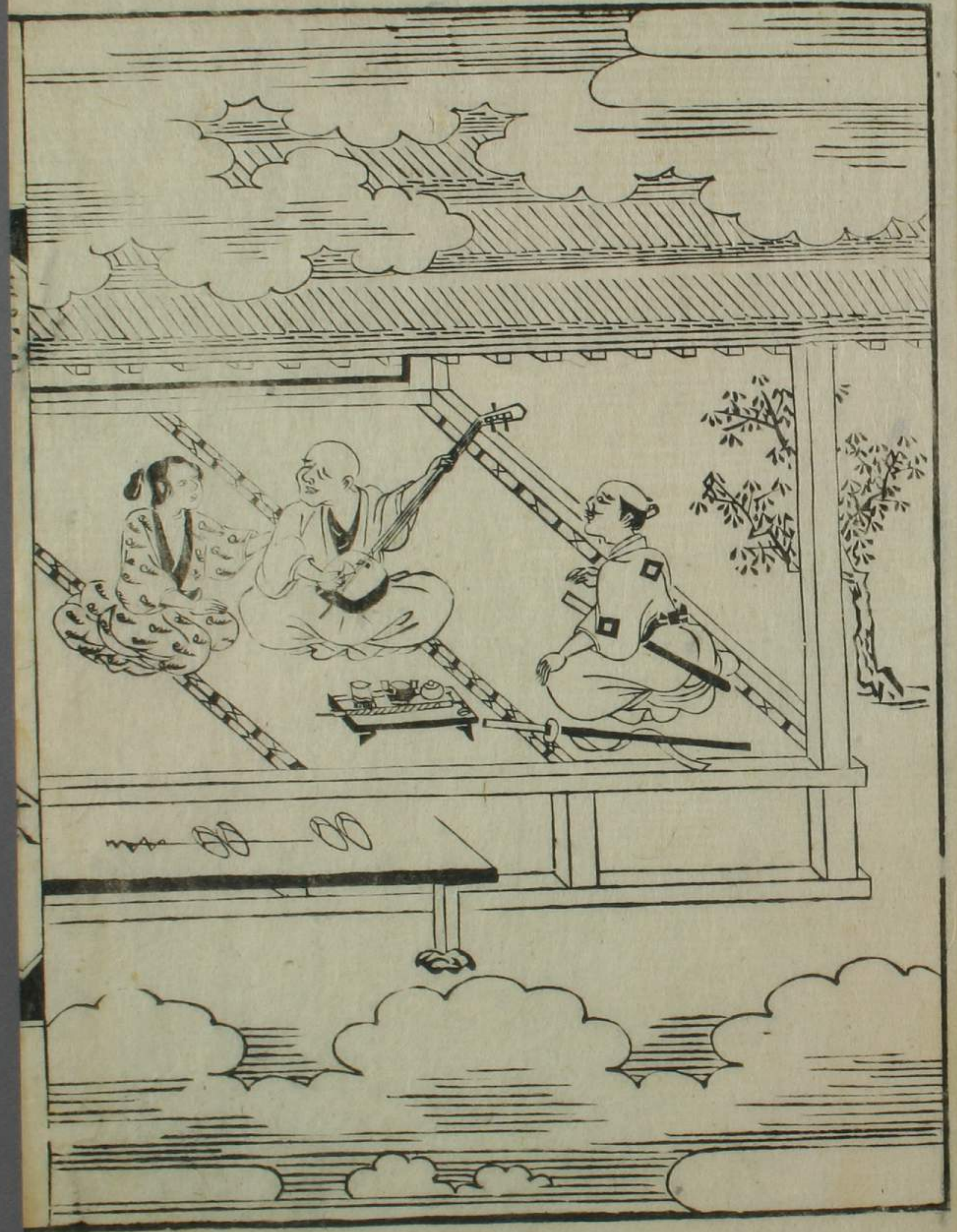
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

○西のあつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう
あつらうあつらうあつらうあつらうあつらう

うつらうつらと暮らすにあらはしとてさきか編むばあはく
 してあふとひびきしうらうらと寝るふらふらあふらふらひか
 多しひをり日敷毎てうらうらわらわらうらうらうらうら
 鬼をけ行編あつた又この月にはまじし母房とくひさ
 きたりきうとわらひあつてはらとみとけうらうらけ
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 けりどやてさねたま煙して空つあつたまじ目うらうら
 うとてたぐ一目のこころあつたうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 二目うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら



○仔細此國司のぬきぬ返とつひ一人勢とむくけり
りけみひりよに暫りて疵疵あてりてとんあ
つらまひさねまきういあつらりけとあてとて友
なまびわりのまてゆきんとふはげう家乃を長小
監物とまひくして消息といひうりつらあてふうとて
届りてまひ

色

○源氏物語のぬきぬ返とつひ一人勢とむくけり
りけみひりよに暫りて疵疵あてりてとんあ
つらまひさねまきういあつらりけとあてとて友
なまびわりのまてゆきんとふはげう家乃を長小
監物とまひくして消息といひうりつらあてふうとて
届りてまひ

○源氏物語のぬきぬ返とつひ一人勢とむくけり
りけみひりよに暫りて疵疵あてりてとんあ
つらまひさねまきういあつらりけとあてとて友
なまびわりのまてゆきんとふはげう家乃を長小
監物とまひくして消息といひうりつらあてふうとて
届りてまひ

わく長たうををくくく色髪はうらうらとよ一をさうり
とあまらしてまやうふふ源氏のゆきう

朝日さしたれ雲梅はまきうまてはらたはたあめん
善法がさうりつらあてとてそのまひうらあてとてよみ
てとてとてあて

あつてとてあてとてあてとてあてとてあてとてあてとて
あつてとてあてとてあてとてあてとてあてとてあてとて

○源氏物語のぬきぬ返とつひ一人勢とむくけり
りけみひりよに暫りて疵疵あてりてとんあ
つらまひさねまきういあつらりけとあてとて友
なまびわりのまてゆきんとふはげう家乃を長小
監物とまひくして消息といひうりつらあてふうとて
届りてまひ

我身とてうみられぬと志ある彼よまれしをたゞこ
けまうと存しつゝ事とつひよ事よはよ海邊なるを源氏
さうとてあひあふや

か衣まじうむとるをさくしとめくも非なる
とよんあひてまうり方路ひきりしを

○あらしのあつてつがはらうきくしきる女どもつゆと
わらうしにわらうらうらとわらうしきる女どもつゆと
つゆとわらうらうらとわらうしきる女どもつゆと

まのよみたるのしるあたるにふしきる女どもつゆと
女どもの中へあふ

まればほつてこれいかりのちりあふらうらうら
このまゝとて思ひあはれしにふしきる女どもつゆと

たやうびつて燈をりしとんとあつてこれいかりのちり
妙の家れうはよ妙つてつとつとふきる女どもつゆと
のあつてつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

公海朝臣

梅津乃び免ららりやあゆんを付らまらる今
らぐつ洞のやまをといふと何ふゆせて百款ごう
ゆきそまらした福命とま増ふまらまらひあま
ふひしはわきまねごう茶抄所にて打あひあま
ゆりて船を扱ひまら船あまをれいそまらまら
○しつ後直法師と后直法師と十首の弁合
あらうるあまはままけて一着のたふありぬ治乃日
後直がりこらまらてはうりけり

あまの秋あまゆらまらひまらあまのあまをまらなる
道免こら弁とまゆきまらまらわらまらまらひまら
しふまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

あまを揚らまらまらまらまらまらまらまらまら
しそ乃野翌日お祭乃弁合とて後直は直あまら合
まらまら後直まらまらまらまらまらまらまら

あまら鳥稻野まらまらまらまらまらまらまら
まらまら法師にまらまらまらまらまらまらまら
紅葉のあまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

